

札幌で夏休み

松浦 俊博

娘の夏休みに合わせて、八月一三日から札幌の娘の家に行った。新千歳空港から快速エアポートで新札幌に、そこで地下鉄に乗り換えて終点で降り一〇分ほど歩く。この辺りは明治初期に屯田兵が開拓した地域で、いたるところに木立や公園がある。

朝起きると涼しく乾燥しているせいか清々しい。家の前の狭い庭にズッキーニ、五種類のトマト、キュウリ、ナス、イチゴを植えており、毎朝食卓に並ぶ。キュウリは先に白くかわいい花がついているが、棘があるので手袋をはめて収穫する。ズッキーニの茎は地面に広がり、黄色い大きな花が咲く。これはてんぷらにして食べられる。トマトは八百屋でよく見る「大玉」と呼ばれるもののほかに、カボチャと間違えるほど大きなもの、イタリアでよく見る長い形のものや小さくて固めだが味は濃くておいしいものなどがあり、いろいろ楽しめる。

孫のヒロシは幼稚園の年長クラスで来年は小学校だ。一年半ほど前までは言葉数が少なく、「小学校に進めるのだろうか」と気がかりだったが、クラスの友人たちのおかげで、今では家で一番のおしゃべりだ。

たまたま、娘とジジババと一緒に家の近くの公園の側を通ったとき、「ヒロシー」と声をかけられ、「E君だ」と公園の中に駆け出した。幼稚園の友人であるE君がお母さんに付き添われ、自分のキックボードで遊んでいる。それを貸してくれて、板のどの辺に乗ればいいのか、ブレーキはどう使うかなどを丁寧に教えてくれたので、ヒロシは初めてのボードにうまく乗れるようになった。

また、滑り台のスライドを上るやり方も、手の使い方を注意してくれて、うまく上れることを見届けてくれる。ブランコも、座った状態から立ちこぎに変わる際の足のかけ方やバランスのとり方も何度もやって見せてくれた。

色々なことを教えてくれる友人が近くにいるからヒロシは成長できているのだと実感し、ありがたく思う。小学校に進んでも良い友に恵まれるよう祈りながら公園を後にした。